



## 1 活動の経緯と現状の概要

日野ボランティア・ネットワーク（鳥取県日野町）は、平成12年10月6日に発生した鳥取県西部地震を機に発足し、人口減少と高齢化が進む中山間地の日野町を拠点に活動しています。大きく、

①日野町における被災後の地域づくり活動、②災害対応経験を踏まえた県内外での取組支援を行い、これを通して地域の防災力を高められるよう努めています。

被災によって地域状況はますます厳しくなり、防災まちづくり大賞を受賞した平成22年当時から、被災・災害対応の経験の継承、町内の人の状況把握、活動の担い手を広げることなどは変わらず課題で、苦勞しているところです。それでも若い移住者が新たな仲間となったり、町外・県外とのつながりを不断に強め協力をもらったりしながら活動を継続していることが、地域力を落とさないことにつながっていると思います。

## 2 日野町における活動

日野町内で柱となっているのは、高齢者だけで暮らす方を誕生日に訪問する活動で、平成14年4月から毎月継続しています。誕生日祝いと併せて生活状況や困りごとを聞き、内部で共有し対応を検討して、近隣住民やボランティア活動による支援につなげたり、必要なことは地域包括支援センターに相談したりしています。

訪問や誕生日プレゼントづくりには、町



高齢者の誕生日訪問で話を聴く

内の様々な団体・機関に属する人や、元ケアマネージャー、看護師、民生児童委員、行政職員などがボランティアとして参加しています。月によっては町外から、被災された方、防災や福祉、地域活動に取り組まれる方も参加されており、こうした多様な参加者による取組が、災害時にも平時にも、「困りごと」を口にしやすい状況づくり、その広がりにつながると考えています。

## 3 災害対応経験を活かす活動

### ●鳥取県西部地震展示交流センターの運営

平成18年から鳥取県の委託を受けて、災害の経験を継承し、地域防災力を高める一端を担う施設を運営しています。常設の資料展示のほか、防・減災や福祉、地域活動等の取組の相談対応や各地の消防団、自治会、民生児童委員の視察受け入れなどを行っています。また地震発生の10月6日前後には周年フォーラムを開い



視察では災害時の対応などを学ぶ

ています。

平成 27 年には、乳児を抱えるスタッフが鳥取県西部地震当時妊娠中や乳幼児がいたお母さんにインタビューし、「被災ママと関係者に聞く！ 子連れ防災」を発行し、この内容を踏まえて、子育てサロンなどの場で防災ワークショップを開いています。それまで発行した 3 冊の記録集と併せて、こうした経験の伝え方もしています。



記録集を通じて経験を継承

### ●鳥取県内外の防・減災や福祉、地域活動等の取組支援

県内外を問わず地域での取組支援をしており、特に平成 24 年度からは、住民一人ひとりが防災など地域の担い手となる取組の推進を図る鳥取県域の事業で、市町村・集落の支援をしてきました。現在は「支え愛事業」として、まち歩きをし

たり地図を広げて座談会を開いたりして、地図に地域の情報を落とし込んで情報を共有し、対応の検討などをする取組が継続しており、その取組を支援しています。



各地で「支え愛」の取組支援

### ●災害時の災害ボランティアセンター運営支援

他地域で大規模な水害・土砂災害、地震などが発生した際には、全国のつながりを活かして被災地の支援活動をしています。

平成 28 年 10 月 21 日に発生した鳥取県中部を震源とする地震に際しては、県域での支援を行い、特に倉吉市災害ボランティアセンターではスタッフが常駐して継続的な支援を行いました。これまで県内外での平時・災害時の支援でできたつながりが活かされ、ボランティアの活動や福祉的な支援などの展開に大変助けていただきました。

このように日野町内で地に足の着いた活動をするとともに、県内外の取組やつながりをフィードバックすることで、風通し良く地域の力を強める活動を続けていけたら、と考えています。